

## 付属語 ① 付属語とは(助詞・助動詞の性質と働き)

1 付属語 …それだけで文節を作れず、常に自立語と一緒に文節を作る。

例 ・ふみひとは／いつも／一人で／寝るらしい。

2 付属語には二種類の品詞がある。

① 助動詞 …主に用言の後について気持ちを表したり、意味を添えたりする付属語で、活用する。

例 ・今日は／ピアノの／レッスンに／行かないから、／家で／勉強しよう。

② 助詞 …自立語や助動詞などの後について、語と語の関係を表したり、意味を添えたりする付属語で、活用しない。

例 ・今日は／ピアノの／レッスンに／行かないから、／家で／勉強しよう。

一 次の文章の—線部の中から付属語をすべて選び、記号で書きなさい。

良平は一瞬間あつげにとられた。①もうかれこれ暗くなる事、去年の暮れ母と岩村まで来たが、今日の途はその三、四倍ある事、それを今からたった一人、歩いて帰らなければならぬ事、—②—③—④—⑤—⑥—⑦—⑧—⑨—⑩—  
泣いても仕方がないと思った。泣いている場合ではないとも思った。彼は若い二人の土工に、取ってつけたようなおじぎをすると、どンドン線路伝いに走り出した。

あくたがわりゅうのすけ  
芥川 龍之介 『トロッコ』 より

二 次の【】内の数をヒントに、各文に含まれている助動詞に—を、助詞には〓線を書きなさい。

① 隣の犬と向かいの犬は仲が悪いらしい。【助動詞1・助詞5】

② 授業でわからないことは、先生に聞いた。【助動詞2・助詞3】

③ 明太子をたらふく食べたいと強く思う。【助動詞1・助詞2】

④ 姉の踊る姿はまるで白鳥のようだ。【助動詞1・助詞3】

⑤ アザラシの赤ちゃんはまだ泳ぎが下手です。【助動詞1・助詞3】



# 助動詞「れる・られる」「せる・させる」

1 「れる・られる」「受け身・自発・可能・尊敬の助動詞

例 友達に笑われる。(受け身) 他から何かをされる

・若い頃が思い出される。(自発) 自然とそうなる

・たくさん食べられる。(可能) 「することができるという意味

・先生が家に来られる。(尊敬) 動作の主を敬う

語	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	おもな接続	活用の型
れる	れ	れ	れる	れる	れれ	れよ	五段・サ変動詞の未然形	活用型 (下一段型)
られる	られ	られ	られる	られる	られれ	られよ	五段・サ変以外の動詞の未然形	

※五段に possible の「れる」がついた「行かれる」などは、「行ける」のよう to possible 動詞 (下一段) を使うのが一般的である。  
※自発の「れる・られる」は心情語「思う・思い出す・案じる」などに付くことが多い。

2 「せる・させる」使役の助動詞

例 ・友達を待たせる。 ・ご飯を食べさせる。(使役) 他に何かをさせる

語	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	おもな接続	活用の型
せる	せ	せ	せる	せる	せれ	せよ	五段・サ変動詞の未然形	活用型 (下一段型)
させる	させ	させ	させる	させる	させれ	させよ	五段・サ変以外の動詞の未然形	

一 次の各文の——線部の助動詞の意味を後のア〜オより選び、記号で書きなさい。

① 彼女の将来が案じられる。

② 社長が話されたことをメモにとる。

③ 母をここまで怒らせたのは僕です。

④ 人に期待されることは少し重荷だ。

⑤ むしむしして寝られない。

⑥ 明日のテストを受けさせようと思う。

ア 受け身    イ 自発    ウ 可能    エ 尊敬    オ 使役

二 次の①・②の動詞には助動詞「れる・られる」のいずれかを、③・④の動詞には助動詞

「せる・させる」のいずれかを接続させて、に書きなさい。

① 出る

② 泣く

③ 遊ぶ

④ 考える



付属語 ③ 「う・よう」

月 日  
名 前

1 「ない・ぬ(ん)」打ち消しの助動詞

例 ・絶対に忘れない。 ・走らねばならない。(打ち消し)「そうしない」という意味

語	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	動詞の未然形	活用 の型
ない	なかる	なかつ	ない	ない	なけれ	○		
ぬ(ん)	○	ず	ぬ(ん)	ぬ(ん)	ね	○	動詞の未然形	特殊型

※「傘が／ない」の「ない」は自立語で形容詞。助動詞「ない」と区別する。

2 「う・よう」推量・意志・勧誘の助動詞

例 ・明日は晴れるだろう。(推量) 不確かなおしはかる

・私も頑張ろう。(意志) 物事を行おうとする気持ち

・一緒にテニスをしよう。(勧誘) 相手を誘う

語	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	おもな接続	活用 の型
う	○	○	う	(う)	○	○		
よう	○	○	よう	(よう)	○	○	五段以外の動詞の 未然形	無変化型

※推量を表す場合は、助動詞「だ」の未然形に「う」のついた「だろう」の形になることが多い。

次の各文の — 線部が打ち消しの助動詞であるものをすべて選び、記号に○を書きなさい。

ア 失恋し、切ない思いを抱いています。

イ 誰にも言わない約束なのに、なぜ話したのか。

ウ 一人でもなんとかやり遂げねば、と思う。

エ 他人を気遣う余裕がない自分がいた。

オ 全力を尽くしたので、あまり悔しくない。

カ 体育館シューズが足に合わなくなったようだ。

次の各文の — 線部の助動詞の意味を後のア〜ウより選び、記号で書きなさい。

① 例の店にご飯を食べに行こうよ。

② この仕事を一人でやり遂げようと思う。

③ 彼女はおそらく信じないだろう。

④ 明日こそ彼女を映画に誘おうと決意する。

ア 推量      イ 意志      ウ 勧誘



助動詞「た・(だ)」  
「たい・たがる」

1 「た・(だ)」過去・完了・存続の助動詞

例 昨日母に手紙を送った。

(過去) かつてそうであったという意味

・今駅に着いた。

(完了) もう物事が終わったという意味

・冷蔵庫に腐った卵がある。

(存続) 引き続きいてある状態にある

語	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	おもな接続	活用の型
た	たろ	○	た	た	たら	○	用言の連用形	特殊型

※存続は「〜ている」と言い換えが可能。

※五段活用用のガ・ナ・バ・マ行の動詞(音便形)に続くとき、濁音化する。「学んだ。」

2 「たい・たがる」希望の助動詞

例 将来は声優になりたい。

(希望) 話し手のしたいことを表す

・妹がアイスを食べたがる。

(希望) 話し手以外のしたいことを表す

語	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	おもな接続	活用の型
たい	たかる	たかつ	たい	たい	たけれ	○	動詞の連用形	形容詞型
たがる	たがら	たがり	たがる	たがる	たがれ	○	動詞の連用形	動詞型(五段)

次の各文の——線部の助動詞の意味を後のア〜ウより選び、記号で書きなさい。

① もう授業は終わったところだ。

② かつて私がそうであった。

③ 冷えたジュースが飲みたい。

④ 小学生の頃読んだ本がここにある。

ア 過去      イ 完了      ウ 存続

次の文章の(①)〜(④)に、「たい」か「たがる」を適切な形に活用させて入れなさい。

娘の道子<sup>みちこ</sup>がおばあちゃんに会い(①)たので、私は道子を実家まで連れてきた。本当のところ、私自身が一番母に会い(②)たのであるが……。道子はおばあちゃんとお風呂<sup>ふろ</sup>に入り(③)、私は休憩<sup>きゅうけい</sup>し(④)なってきたので、ソファでくつろいでいた。

①

②

③

④



1 「らうらう」 推定の助動詞

例 ・ 明日は晴れるらうらう。(推定) 根拠をもとにおしはかる

語	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	おもな接続	活用の型
らうらう	○	らうらかう	らうらう	らうらう	らうしけれ	○	動詞・形容詞の終止形、 形容動詞の語幹、体言	形容詞型

※「明日は雨らうらう。」「のらうらう」は助動詞で、「女らしい人だ。」「らしい」は形容詞「女らしい」の一部。紛らわしうので気をつけよう。

2 「まい」 打ち消しの推量・打ち消しの意志の助動詞

例 ・ あの子はここへは来るまい。(打ち消しの推量) 「くないだろう」

・ 絶対に嘘はつくまいと心に決めた。(打ち消しの意志) 「くないつもりだ」

語	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	おもな接続	活用の型
まい	○	○	まい	(まい)	○	○	五段活用の終止形、 五段以外の動詞の未然形	無変化型

※打ち消しの推量の「まい」の場合、現代では「くないだろう」を使うことが多い。

一 次の各文の――線部の助動詞の意味を後のア～ウより選び、記号で書きなさい。

① 彼女のダイエットは長くは続くまい。  ② 今年の夏はとても暑くなるらしい。

③ 今日こそ絶対にサボるまい。  ④ 県外といえども、さほど遠くはあるまい。

ア 推定      イ 打ち消しの推量      ウ 打ち消しの意志

二 次の各文の――線部が推定の助動詞「らしい」であるものをすべて選び、記号に○を書きなさい。

ア あちらから来るのは先生らしい。

イ 目のくりっとした白くてかわいららしい犬がいる。

ウ 三つ編みは学生らしい髪型だ。

エ 西川社長は、実は帰国子女らしい。

三 次の各文の  の語を正しく活用させなさい。

① 下校時刻は五時を 過ぎる まい。

② あの子は一人では 勉強する まい。



助動詞「そうだ」  
「ようだ」

1 「そうだ」 様態・伝聞の助動詞

- 例 ・雪が積もりそうだ。 (様態) 物事の様子や状態を表す  
 ・雪が積もるそうだ。 (伝聞) 人から伝え聞いたことを表す

語	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	おもな接続	活用の型
語	そっだ	そっだろ	そっだ	そっな	そっなら	○	動詞の連用形、 形容詞・形容動詞 の語幹	形容動詞型
様態	そっだろ	そっだろ	そっだ	そっな	そっなら	○	形容詞・形容動詞 の語幹	形容動詞型
伝聞	そっだ	そっだ	そっだ	そっな	そっなら	○	用言の終止形	形容動詞型

※様態か伝聞かは、活用の仕方や接続で判断しよう。

2 「ようだ」 比喩・例示・推定の助動詞

- 例 ・まるでアリのようだ。 (比喩) 物事を何かにたとえる  
 ・父のようなエンジンアになりたい。 (例示) 例を示す  
 ・隣は庭で花火をしているようだ。 (推定) 何らかの根拠をもとにおしはかる

語	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	おもな接続	活用の型
語	ようだ	ようだろ	ようだ	ような	ようなら	○	用言の連体形、 助詞「の」「〜」の 型の連体詞	形容動詞型
比喩	ようだ	ようだろ	ようだ	ような	ようなら	○	用言の連体形、 助詞「の」「〜」の 型の連体詞	形容動詞型
例示	ようだ	ようだ	ようだ	ような	ようなら	○	用言の連体形、 助詞「の」「〜」の 型の連体詞	形容動詞型
推定	ようだ	ようだ	ようだ	ような	ようなら	○	用言の連体形、 助詞「の」「〜」の 型の連体詞	形容動詞型

※例示は「例えば」という言葉を、推定は「どうやら」と言う言葉を、それぞれ補うことができる。

1 次の各文の―線部の助動詞の意味を後のア〜オより選び、記号で書きなさい。

- ① 兄のように、皆勤賞を目指たい。  ア 様態  イ 伝聞  ウ 比喩  エ 例示  オ 推量
- ② りんごのように赤いほっぺ。  ア 様態  イ 伝聞  ウ 比喩  エ 例示  オ 推量
- ③ 酔は身体にとても良いそうだ。  ア 様態  イ 伝聞  ウ 比喩  エ 例示  オ 推量
- ④ 楽しい一年になりそうだ。  ア 様態  イ 伝聞  ウ 比喩  エ 例示  オ 推量
- ⑤ マシユマロのような白くて柔らかい頬。  ア 様態  イ 伝聞  ウ 比喩  エ 例示  オ 推量
- ⑥ 父は毎晩、残業しているようだ。  ア 様態  イ 伝聞  ウ 比喩  エ 例示  オ 推量
- ⑦ コーヒーのような苦い飲み物がいい。  ア 様態  イ 伝聞  ウ 比喩  エ 例示  オ 推量
- ⑧ この試験は合格するような気がする。  ア 様態  イ 伝聞  ウ 比喩  エ 例示  オ 推量

2 次の文の―線部「そうだ」とはたらきが同じものを後のア〜エより一つ選び、記号に○を書きなさい。

・これからミーティングがあるそうだ。

ア ケガをした子犬がかわいそうだ。

イ ゴールした妹の顔はとてもうれしそうだ。

ウ マイホームをもって、幸せそうだ。

エ 今日の理科のテストは難しいそうだ。



1 「だ・です」 断定の助動詞

例 ・これが私の希望だ。・あれが姫路城です。 (断定) はつきり判断を下す

語	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	おもな接続	活用の型
だ	だろ	でだっ	だ	(な)	なら	○	体言助詞「の・から・だけ・など・くらい・ばかり・まで」	形容動詞型
です	でしょ	でし	です	(です)	○	○		特殊型

※紛らわしいものの例Ⅱ「静かだ」(形容動詞語尾)「あれは犬だ」(断定の助動詞)「

2 「ます」 丁寧の助動詞

例 ・お寿司をにぎります。(丁寧) 丁寧な言い方

語	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	おもな接続	活用の型
ます	ませ	まし	ます	ます	(ますれ)	ませ	動詞の連用形	特殊型

※命令形は「なさる」「いらっしやる」などの敬意を含む動詞のイ音便に続く。

例 「お帰りなさいませ。」「いらっしやませ。」「

1 次の文の―線部「だ」とはたらきが同じものを後のア～エより一つ選び、記号に○を書きなさい。

・私の趣味は仲間とクラシックギターの演奏をすることだ。

ア その機械の構造は複雑だ。 イ 図書館で借りた本を読んだ。

ウ 先生は風邪でお休みだそうだ。 エ 夏休みのプール開放は火曜日と木曜日だ。

2 次の文章中にある断定の助動詞には―線を、丁寧の助動詞には〓線を書きなさい。

断定の助動詞は三つ、丁寧の助動詞は四つあります。

今日はお母さんが運転免許の最後の試験を受ける日です。僕とお父さんは試験場の近くの喫茶店で、お母さんを待つことにしました。お母さんは運動が苦手で、車のゲームも下手なので、免許を取りたいと聞いた時はとても心配でした。でも、お母さんは頑張ったのでしよう。なんとかここまでできたのです。お父さんと、お母さんの話をしながら喫茶店に入ると、「いらっしやませ。」という店員さんの声。席に着くと、「何にいたしましよるか。」という店員さんの問いかけに、僕はミックスジュースを、お父さんはコーヒーを注文しました。



1 格助詞 …おもに名詞の後について、その文節と他の文節の関係を示す働き。

【が・の・に・を・へ・や・と・から・より・で】(オ・ニ・ガ・ト・ヨリ・デ・カラ・ノ・ヘ・ヤ)

※格助詞は「鬼が戸より出、空の部屋。」と覚える。

例 ・虫が鳴く。(主語) ・海が見たい。(対象)

・母の本。(連体修飾語) ・風鈴の鳴る音。(主語) ・遊ぶのが好き。(体言の代用)

・村にいる。(場所) ・妹に字を教える。(相手) ・虫採りに行く。(目的)

・テレビを見る。(対象) ・右へ曲がる。(方向) ・犬や猫。(並立)

・弟と遊んだ。(相手) ・「お帰り。」と言う。(引用) ・冬も終わりとなる。(結果)

・上から落ちた。(起点) ・木から紙ができる。(材料)

・父より背が高い。(比較) ・これより始めます。(起点)

・海で泳ぐ。(場所) ・車で向かう。(手段) ・暑さで倒れる。(理由)

2 接続助詞 …活用語(用言・助動詞)の後について、前後の関係を示す働き。

【ば・と・て(で)・が・ても(でも)・けれど・のに・ので・ながら等】

例 ・練習すれば、腕が上がる。 練習すると、腕が上がる。 …… (仮定)

・黒くて美しい彼女の髪の毛。 …… (並立)

・探したが、なかった。言わないけれど、知っている。 …… (逆接)

・待っても、無駄だ。急いなのに、間に合わなかった。 …… (理由)

・昨夜は徹夜をしたので、今はとても眠い。 …… (動作の並行)

・テレビを見ながらご飯を食べるのは、よくない。 …… (動作の並行)

1 次の各文の ―線部の助詞の種類(A)と意味(B)を、それぞれ後から選び、記号で書きなさい。

① 決して諦めないと心に誓う。 A  B  ② 年賀状を筆で書く。 A  B

③ 車で行けば、早く着ける。 A  B  ④ 花より団子。 A  B

⑤ 牛肉や豚肉の料理。 A  B  ⑥ 一人で勉強をする。 A  B

⑦ 電話したのに、誰もでない。 A  B  ⑧ 走ったので疲れた。 A  B

A 【① 格助詞 ② 接続助詞】

B 【ア 並立 イ 仮定 ウ 手段 エ 引用 オ 比較 カ 対象 キ 逆接 ク 理由】

2 次の文の ―線部「が」とはたらきが同じものを後のア～エより一つ選び、記号に○を書きなさい。

・あの白と黒のストライプのTシャツが欲しい。

ア 牛乳屋さんが配達に来了。 イ サイフを忘れた。が、定期入れは持っていた。

ウ オレンジジュースが飲みたい。 エ 失敗したが、またやり直そうと思う。





1 副助詞 …種々の語の後に続いて、その語にさまざまな意味を添える働き。

【は・こそ・も・さえ・しか・でも・か・ほど・まで・ばかり等】

例 給食は楽しみだ。(区別) 君こそキャプテンにふさわしい。(強調)

私もコーヒーが欲しい。(同類) 三時間も勉強をした。(強調)

水さえあればいい。(限定) 立ち上がることをさえできなかった。(類推)

※類推⇨類似の点をもとにして、他を推しはかること。「すら」と言い換えられる。「立ち上がる」ということには「歩いたり走ったりもできない」ということが推し量れる。

家には米しかない。(限定) 初心者の私でもできる。(類推)

お茶でもしませんか。(例示) かき氷がアイスが食べたい。(選択)

三十分ほど遅れます。(程度) 三時まで待つ。(限度)

妹にまで笑われた。(類推) 今出たばかりだ。(間もない状態)

私ばかり損だ。(限定) 十分ばかり待つ。(程度)

2 終助詞 …文末について、意味を加える。

【か・かしら・の・や・ね(ねえ)・な(なあ)等】

例 これは君のペンですか。(疑問) 嘘なんかつくものか。(反語)

※反語⇨強調するために、言いたいことと反対の内容を疑問の形で述べる表現。

兄ちゃんはすごいや。(感動) コロや。はやくこい。(呼びかけ)

これは君のものだよ。(念押し) 綺麗な夕日なあ。(感動)

1 次の各文の —線部の助詞の種類(A)と意味(B)を、それぞれ後から選び、記号で書きなさい。

① ペンか鉛筆を持ってきなさい。 A  B

② 亀にまで追いつかれる。 A  B

③ こんな服恥ずかしいや。 A  B

④ 君さえいれば満足だ。 A  B

⑤ 僕はいつも真剣だ。 A  B

⑥ こんなにも宿題がある。 A  B

⑦ さっき起きたばかりです。 A  B

⑧ 一体どうしろというのか。 A  B

A 【① 副助詞 ② 終助詞】

B 【ア 反語 イ 感動 ウ 区別 エ 間もない状態 オ 類推 カ 限定 キ 強調 ク 選択】

2 次の文の —線部「でも」とはたらきが同じものを後のア〜エより一つ選び、記号に○を書きなさい。

・私でも解ける問題なのだから、山口さんなら絶対に解ける。

ア ドライブにでも行こうよ。

イ 雪だ。でも外に出て遊びたい。

ウ 呼んでも来ない兄。

エ 最下位でも賞品がもらえる。



一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

君は遊びに来たのでしょうか? どこへ行っても軽蔑<sup>けいべつ</sup>されるし、懐中<sup>かいちゆう</sup>も心細<sup>こころこ</sup>いし、Dのところへでも行ったら、あるいは気が晴れるかも知れん、と思<sup>A</sup>ってやって来たのでしょうか? 光栄な事だ。そんなに、たよりにされて、何一つ期待に添<sup>そ</sup>わぬというの<sup>②</sup>も、むごい話だ。よろしい。今夜は一つ、私のアルバムをお見せしまし<sup>③</sup>ょう。面白い写真<sup>B</sup>も、あるかも知れない。お客の接待にアルバムを出すというの<sup>④</sup>は、こいつあ、よっぽど情熱<sup>C</sup>の無い証拠<sup>しんこ</sup>なのだ。いい加減にあしらって、ていよく追い帰<sup>かえ</sup>そうとしている時に、この、アルバムというやつが出るものだ。注意<sup>たま</sup>し給<sup>たま</sup>え。怒<sup>おこ</sup>っちゃいけない。私の場合は、そうじゃないん<sup>a</sup>だ。今夜は、生憎<sup>あいにく</sup>お酒も無ければ、お金も無い。文学論も、いや<sup>b</sup>だ。けれども君を、このままむなしく帰<sup>かえ</sup>らせるのも心苦しくて、いわば、窮余<sup>きうご</sup>の一策<sup>いちさく</sup>として、こんな貧弱なアルバムを持ち出したというわけ<sup>c</sup>だ。元来、私は、自分の写真などを、人に見せるのは、実に、いや味な事<sup>d</sup>だと思<sup>e</sup>っている。失敬な事だ。よほど親しい間柄<sup>あいだから</sup>の人<sup>f</sup>にでもなければ、見せるものではない。男が、いいとしをして、み<sup>f</sup>つともない。私は、どうも、写真そのものに、どだい興味が<sup>g</sup>ないのです。撮影<sup>さつえい</sup>する事にも、撮影される事にも、ちっとも興味が<sup>g</sup>ない。写真というものを、まるで信用<sup>しんよう</sup>して<sup>h</sup>ないのです。

〜太宰治『小さいアルバム』〜

①—線部 ①〜⑤の助動詞の意味を後のア〜クより選び、記号で書きなさい。

- |   |                          |   |                          |   |                          |   |                          |   |                          |
|---|--------------------------|---|--------------------------|---|--------------------------|---|--------------------------|---|--------------------------|
| ① | <input type="checkbox"/> | ② | <input type="checkbox"/> | ③ | <input type="checkbox"/> | ④ | <input type="checkbox"/> | ⑤ | <input type="checkbox"/> |
|---|--------------------------|---|--------------------------|---|--------------------------|---|--------------------------|---|--------------------------|

ア 打ち消し イ 自発 ウ 推量 エ 丁寧 オ 受け身 カ 意志 キ 使役 ク 尊敬

②—線部 A〜Cの助詞と意味・はたらきが同じものを、それぞれ後のア〜エより一つ選び、記号に○を書きなさい。

A「と」  
ア 勉強と部活どちらも頑張<sup>がんば</sup>りたい。  
イ 雨が降ると、プールの授業はなくなる。  
ウ ぶどうの季節となりました。  
エ おやすみと言ったのに、まだ起きています。

B「も」  
ア こんなにも思っているのに、伝わらない。  
イ 二時間もかけて来たのに、会えなかった。  
ウ お母さんも一緒に<sup>いっしょ</sup>お祭りに行こうよ。  
エ このメロンは五千円もしたからおいしいはずだ。

C「の」  
ア セミの鳴く季節になりました。  
イ この体育館シューズはあなたのですか。  
ウ 将来の夢は科学者になることです。  
エ 暑い日より、寒いのが好きだ。

③  a s d「だ」の中で、一つだけはたらきが違<sup>ちが</sup>うものがある。それを選び、記号で書きなさい。

④  e s h「ない」の中で、助動詞であるものを一つ選び、記号で書きなさい。



① 次の各文の――線部の助動詞の意味が同じものには○、そうでないものには×を書きなさい。

① 君が親切にしてくれたことを、僕は絶対に忘れまい。

この情報化社会の行く末はきつと誰にも予想できまい。

② 故郷で一人暮らしをしている、老母の身が案じられる。

リンゴの香りに包まれると、君のことが思い出されるよ。

③ はがれた壁紙をすべて取り替えて、リフォームしたい。

中学校の運動会はちょうどいま始まった頃だろう。

④ 先輩は明日から大阪代表の練習に参加するそうです。

かなり疲れてはいますが、まだすこし頑張れそうです。

⑤ もう卒業までみんなで一緒に遊べる機会はないようだ。

息子はなんとか東京で一人暮らしができています。

② 次の各文のまちがいがある文節を――線を書き、その文節を□に正しく書き直しなさい。

① 飼い犬のポチが水を飲みたいので、ぼくは皿にたっぷり水を入れてやった。

② このぶどうは少し腐っていて、食べれない。

③ 次の文章の【一】にあてはまる助詞を後のⅠから選び、またその助詞の意味をⅡから選んで記号で書きなさい。

父は食べ【①】話をすると怒ります。それ【②】行儀が悪いからだそうです。しかし、僕は楽しくご飯を食【③】、いろいろな話をしたいです。静かな食卓【④】、少しぐらいにぎやかな食卓がいいです。母は、どちら【⑤】意見もわかるそうです。

Ⅰ A の B でも C より D が E ので F ながら G は

Ⅱ ア 原因・理由 イ 連体修飾語 ウ 動作の並行 エ 主語  
オ 区別 カ 比較 キ 体言の代用 ク 対象

①  
Ⅱ □ I □

②  
Ⅱ □ I □

③  
Ⅱ □ I □

④  
Ⅱ □ I □

⑤  
Ⅱ □ I □

